

傾斜地茶園におけるチャノコカクモンハマキ に対する交信攪乱剤の防除効果



写真1 チャノコカクモンハマキの雄
成虫（左）と被害葉（右）



写真2 フェロモントラップ（左）と
交信攪乱剤（右）の設置状況

当場では、安全・安心をアピールできる茶の病害虫防除体系について研究を進めています。今回は、重要害虫の1つであるチャノコカクモンハマキ（写真1）に対する交信攪乱剤ハマキコン-N（写真2）の有効性を検討しました。

本県茶園の大半が、急傾斜地茶園ですが、この交信攪乱剤は、空気より重く、下方に流れる性質があるため、傾斜地での効果の安定性が懸念されています。

そこで、交信攪乱剤を斜度約15度の茶園に250本/10a（摘採面下10～15cm、設置間隔2m）設置し、雄成虫の性フェロモントラップへの誘殺数と被害が最も多い第3世代

表1 性フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキ雄成虫の誘殺数と誘引阻害率

	無処理区 (匹)	処理区 (匹)	誘引阻害率 (%)
越冬世代（4月～5月）	440.0	3.5	99.2
第1世代（6月～7月）	487.5	7.5	98.5
第2世代（7月～8月）	252.5	11.0	95.6
第3世代（9月）	419.0	19.5	95.3
第4世代（10月～11月）	310.0	10.0	96.8
年間合計	1909.0	51.5	97.3

注) 1) フェロモントラップ設置場所：当試験場内は場

2) 各区フェロモントラップ2個の平均

3) 誘引阻害率(%) = $(1 - (\text{処理区誘殺数} / \text{無処理区誘殺数})) \times 100$

表2 チャノコカクモンハマキ第3世代の幼虫密度

	巻葉数	幼虫数（匹/㎡）
処理区	2.8	2.8
無処理区	17.6	8.3

注) 1) 処理区は、場内は場に交信攪乱剤250本/10aを設置

2) 両区とも殺虫剤無散布

3) 調査：8月17日に0.5m×0.5m枠12カ所内の巻葉数・幼虫数を調査した。

幼虫の巻葉数・幼虫数を調査しました。

その結果、交信攪乱剤処理区における誘引阻害率は、全ての世代で、95%以上あり、交信攪乱効果の高いことが明らかになりました（表1）。また、処理区の巻葉数・幼虫数は、ともに少なく、幼虫密度の抑制効果が認められました（表2）。

これらのことから、今回供試した交信攪乱剤は、チャノコカクモンハマキに対して、急傾斜地の茶園においても、有効であることが明らかになりました。

今後は、設置本数を削減した防除法を検討する予定です。

（茶業試験場 濱田倫哉 0889-32-1024）

高知県農業技術センターニュース 第54号

平成21年1月1日

農業技術センター

〒783-0023 高知県南国市廿枝1100

TEL(088)863-4912

FAX(088)863-4913

農業技術センター山間試験室

〒789-0315 長岡郡大豊町中村大王3523-7

TEL(0887)72-0058

FAX(0887)72-1544

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/kikan/kenkyu/se/home/>

編集発行 高知県農業技術センター

所長 前田 幸二

果樹試験場

〒780-8064 高知市朝倉丁268

TEL(088)844-1120

FAX(088)840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/kikan/kenkyu/kaju/index.htm>

茶業試験場

〒781-1801 吾川郡仁淀川町森2792

TEL(0889)32-1024

FAX(0889)32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/kikan/kenkyu/tya/index.htm>